

あれから 314 年

# 中央義士会報

創立明治 41 年

平成 30 年 3 月発行 No69

## 寺坂吉右衛門最終章

生き残った義士



著者 中島康夫

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

寺坂吉右衛門の全てがわかる決定版。著者のライフワークとも言える研究書で、50年にわたる研究成果です。

江戸時代から続く寺坂逃亡説は、これで終止符を打ちます。

一冊 2,000 円（予定）、送料 350 円。（10冊以上は 16,000 円、送料無料）

郵便局の払込票の通信欄に「寺坂吉右衛門」と記し、下記へ。

発売元 中央義士会。

中央義士会 00250-9-139100

振込を確認次第発送いたします。

TEL 048-973-3777 FAX 048-973-3790

目次	次
・寺坂吉右衛門最終章	1
・義士子孫としてこれだけはいいたい	2
・追記	3
・村岡正夫氏書簡	4
・勝田芳造	2
・中島康夫	3
・親戚から見た元禄事件(二)	7
・その時義士はどこにいたか	9
・第十五回忠臣蔵博士試験問題	9
・自由広告・今期入会会員紹介	12
・編集後記	15
・萩原 栄	7
・三輪三郎	9
・中島康夫	12

## 義士子孫として

これだけは云いたい

勝田新左衛門子孫

評議員 勝田芳造

私は今年で中央義士会在籍四十年を迎えました。

この間、第二代亀岡幸知理事長から今日の第五代中島康夫理事長に至る、各代の理事長ほか多くの先輩、会員諸氏に温かく接して頂きました。また義士子孫の方々とも親しく語り合える間柄になりました。ご先祖様が導いたご縁で有難いことであります。ところで、近年「子孫の会」が彼方此方にあるので整理してみたいと思います。

「子孫の会」の由来は昭和六十三年十二月十四日、義士追憶の集いの後、特別座談会「義士子孫を囲んで」を設けた。司会は故三田村準一評議員、参加者は私を含めて十一名、有意義な話し合いをし、子孫同士は「親睦の確認」を得た。よって次回開催を希望したのである。これが義士会内「子孫の会」の始まりであります。

平成十年六月、銀座並木ビルに於いて「義士子孫先祖を語る」中央義士会・会員懇談会を開催。義士子孫四名がそれぞれ発表し、質問にもお答えしました。そのあと細井広沢ご子孫の故細井知光氏が細井家に伝わるお話しをされました。

我が「子孫の会」の対外活動の一つに中央義士会の推薦をうけて毎年赤穂義士祭に参加してまいりました。私も故近松重義氏と共に当時の中島理事から

お声を掛けて頂き即座に参加の意志を伝えました。推薦されて良かったと思つたのは近松氏もまた同じで、氏はこの推薦の謝意を全義連会報で述べています。またすべての参加者が先祖に思いを馳せ、討入姿で赤穂市中を行進したその様子を中央義士会会報、全義連会報、忠臣蔵倶楽部会報で発表しています。

この様に活動の一部を示しましたが「子孫の会」は義士会の中で活発に活動しているのです。

これまでの中央義士会内「子孫の会」を知ってもらった上で「赤穂義士子孫の会」の皆様が事実を告げます。

平成四年十一月、世話人十名の名を列記し「赤穂義士子孫の会」初めての集まり（総会）の案内状が配布されました。この案内状に記されている世話人は一人を除けば中央義士会会員であり、どう見ても義士会内子孫の集まりにしか見えないのです。案内状の追伸◎尚、ご返事は十二月十四日義士祭前までにお願ひ致します。連絡係は世話人、間瀬一美氏がお引き受けにられました。

翌平成五年二月四日、泉岳寺庫裏に於いて第一回総会が開かれた。私は中央義士会の中に在って子孫同士の「親睦の会」結成と思ひ参加しましたが、会議が始まり故丸田忠吾議長により議事が進められ「赤穂義士子孫の会」の方針が示されました。

おどろいたことに「赤穂義士子孫の会」は「財団法人中央義士会」と一線を画し、社団法人認可に向けて」と明言された。世話人で中央義士会評議員であれば中央義士会趣意書をお読みになったと思うが、丸田議長は若しかして未読でありましたか、精読されていればこんな真逆な考えは思ひ浮かばないでしょう。

中央義士会に在籍しながら此処泉岳寺庫裏に於いて義士会に反旗を翻すとは何事であるか、この書

院・庫裏再建にあたり中央義士会では会員に呼びかけ、九十八名による寄付金を志納させて頂いた有難い建物であります。この事も知っておられたか、場所柄を弁えず極めて不謹慎であると私は感じました。さらには参会者から入会申込書の記載事項について質問があり、「自分と先祖との今日までの関わりについて証明出来ない」が如何との問いに、議長は「本日ご出席の方は特別であり、これから入会される方については厳格な審査をする」との答弁でありました。これでは系譜・系図を無視するに等しく歴史を欺くこととなります。「事実と違う子孫の会」になると直感しました。

これが「赤穂義士子孫の会」発会の実体なのです。故に私は入会申込書を提出しませんでした。再度入会申込書が送られてきましたがこれも断りました。私の系図は昭和五十二年すでに中央義士会で承知しており、さらに昭和六十年十月、泉岳寺庫裏に於ける当年度第三回例会で本家当主故勝田貞氏が「勝田家について」を発表しております。

私の手元に平成六年二月七日付、世話人から私宛の一通の手紙が有ります。正しく伝えるため全文を掲載します。

謹啓 時下寒冷の砌貴台益々御清栄の段、大慶に存上げます。陳て去る二月四日の第二回総会には身体不調の為、代理出席と致し勝手を致しました。當会も追々活況化するものと思はれますが、既に當日も二、三の議案が提案されました。茲で私は豫てから私見を有して居りましたので之を皆様に申述べたいと存じますので本書を差上げた次第でございます。一、「赤穂義士子孫の会」は飽く迄も親睦の会に止めらる可きである事。

二、「その会の対外活動は中央義士会と一体となつて

行ひ単独では行はない」と言う二点であります。之が理由は御周知の通り中央義士会として篤志の人々の善意に依り大正五年に設立され、昭和八年には財団法人として認可を得て、博く日本の活動が續いて居る事は御承知の通りであります。

我々義士に縁りある者は陰に陽に多大の世話になつて居る筈で、忘れてはならない事でありませう。また「子孫の会」の会員の中には右の義士会の評議員等になられて居る方も多数居られる筈であります。此の「子孫の会」が段々と行動がエスカレートして行くと右記の方達と分派的行動を取つた事となり、永年の恩義に反する結果になる事は明々白々であり、子孫の代になつて不義理の指弾を受ける様なことは、どうしても避けねばなりません。

右様の次第にて此際改めて「赤穂義士子孫の会」は親睦のみに徹することを宣言し、対外活動は中央義士会事務局と万事協議して行う様に提案したいのであります。

関係の人々は皆善い人達であり円満に協力して行く具体的な方法等は左程むつかしい事柄ではありませんから大いに期待出来ると思つて居ります。何卒「子孫の会」の皆様は御意見を仰ぎ度御願ひ申上ぐる次第で御座います。

先は右要用まで  
平成六年二月七日

敬具

(原文を次項以降に載せる)

このお手紙が義士子孫として取るべき最善の道であり、「貴殿のご意見に同意」の旨を記し同年二月十日返書を差上げました。

これまでのことから「赤穂義士子孫の会」の皆様が義士子孫であることを、よくよくご認識され、ご先祖様の忠義の団結を見習うべきであり、「赤穂義士

子孫の会」は「中央義士会」を中心に動くべきであります。是非、私の意見にご賛同頂きたく存じます。

追記

中島康夫

右の勝田様の文中にありません世話人と申します御方は、中央義士会の元評議員で故村岡正夫氏であります。

なお、同じ時期同文のお手紙が私宛にも届き、更にお電話でもいろいろお互いに話し合われたことも何度かございました。その会話の中で村岡様はこうも話されたこともございました。

「O氏とM氏などは理事になりたくて別派を立ち上げたんだよ」と、いつも話されておりました。又、こうも話されておられました。

「子孫といつても証拠もなく、はっきりしない方々もいるのだから、中央義士会の中で学びながら自分たちの祖先のことを調べていくのが一番の方法だ」

以上のように、二、三人の一部の方々から自分たちのしがたない野望のために立ち上げたのが、今の「子孫の会」なのです。

問題なのは、「子孫の会」と名乗る方々の中で現在誰一人研究などされている方は居ないということ。論文など目にしたこともございません。

唯々、義士の子孫を名乗るだけなのです。確たる証拠もありません。

また、こうも主張しているとも聞きました。「我々は、斎藤先生の論を支持する」と。

少し考えてみて下さい。斎藤氏の論と、我々が現在学んでいる論とどこが違うのでしょうか。全く同じでございます。更にいえば斎藤氏が「赤穂義士実纂」を著した昭和五十年代より、現在まで幾多の新史料を発見して五歩も六歩も先へ進んでいるといつても過言ではございません。大きく前進しております。

ただ、斎藤茂氏の「赤穂義士実纂」は稀代の名著であることも事実で、今となりましては、調べごとをする際に非常に便利であることも事実です。

御子孫を名乗られる方々、または現在、O氏やM氏が率いている「子孫の会」に籍を置かれて居る方々、この辺で目を覚まして本来の姿に立戻つて下さい。現在、中央義士会の研究がどれ程先へ進んでいるか思い知ることが出来るでしょう。

## 入会手続き

郵便局の払込取扱票で、入会金3000円を下記口座にお送り下さい。初年度の年会費は不要です。

中央義士会 00250-9-139100

通信欄に「入会・子孫」とお書き下さい。

電話直通 080-8908-1633

謹啓

時下寒冷の砌、貴台益々御清栄

の段、大慶に存じます。

陳て来る二月四日

の第ニ回總會には、身体不調の為、代理出席

と致し、勝手な致しませう。當会も追々活況

化するものと思はれますが、既に當日も二三の

議案が提案されました。

茲で私は豫てから私見を有して居りましたので之を

皆様様に申述べたいと存じますので、本書を差上げた

次第で御座います。

(一)「赤穂義士子孫の会」は館く迄も親睦の

会に止める可きである事。

(二) その会の対外活動は中央義士会と一体と

なつて行ふ單獨では行はない」と言う二点で

あります。

之が理由は

市園知の通り中央義士会として篤志の人々の  
 善意に依り大正五年に設立され昭和八年  
 には財団法人とし認可を得て博く日本的な活  
 動が續いて居る事は御承知の通りであります。  
 我々義士に縁りある者は陰に陽に多大の  
 世話になつて居る苦で亡くはならない事であり  
 ませう。又子孫の会員の中には右の  
 義士会の評議員、理事になられて居る方も多数  
 居られる苦であります。  
 此の子孫の会が段々と行動がエスカレートして  
 行くに右記の方達と分派的行動を取つた事  
 となり、永年の恩義に反する結果になる  
 事は明々白々であり、子孫の代になつて不義  
 理の指弾を受ける様なことは、どうしても避け  
 ねばなりません。

右様の次第にて此際改めて「希徳義士子孫の会」  
 は親睦のみに撤するこゝを宣言し、対外活動は  
 中央義士会事務務るこゝ事協議して行う様に  
 提案したいのであります。

関係の人々は皆善い人達であり田満に協力して  
 行く具体的方法等は左程むつかしい事柄では  
 ありませんから大いに期待出来ること信じて居ります。  
 何卒「子孫の会」の皆様にご意見を仰ぎ度  
 お願い申し上げます。

先は右要用まで

平成六年二月七日

敬 具

村岡正夫

勝田芳造 承

市直坡

## 親戚から見た元禄事件 (2)

― 饗応役で使用した伝奏屋敷の道具類について ―

常務理事 荻原 栄

元禄十四年三月十四日、松之廊下事件時、饗応役が浅野内匠頭から戸田能登守に交代した。饗応役の主な役目の一つに、勅使の宿舎である伝奏屋敷に泊まり込み、一週間ほど滞在する勅使のお世話がある。勅使は朝六時(時間は現在の時間に置き換えている。以下同じ)頃に起きて、登城の準備をするため、饗応役の浅野内匠頭はそれ以前に起き、夜、勅使が寝たのを確認してから自分も就寝するのである。寝る時間もいろいろ忙しく、また、気をつかうだけでなく、伝奏屋敷で使用する屏風や生活用品など大量の道具類は全て浅野家が準備して運び込んでいた。

この交代の時、赤穂浅野家は、原惣右衛門の活躍によって、伝奏屋敷から道具を運び出したことは有名である。この時、原惣右衛門は、舟を仕立てて伝奏屋敷に横付けし、素早く道具を運び出したことは、後に、赤穂義士たちが言い伝えており、その活躍は評判になった。

また、江赤見聞記でも、三月十四日に龍ノ口から舟

で伝奏屋敷の道具を運び出したが、過半は行方不明、とあるので道具は舟で運び出したが、大半の道具は泥棒によって盗まれてなくなつたものと考えられる。この時期、浅野家上屋敷では、裏の水門から家具泥棒が入りしており、堀部安兵衛が追い払つたことがあつた。

しかし、この件に関して次のような疑問が湧く。二月四日に饗応役を命じられて以降、一ヶ月あまり時間をかけて準備し、伝奏屋敷に運び込んだ大量の道具類を、わずかな時間で運び出すことが可能なのか、かつ、当日の昼頃に浅野内匠頭の代わりを命じられた戸田能登守が、同じくわずかな時間で道具類を用意して運び込めるだろうか。松之廊下事件は、午前十一時ころに発生、戸田能登守が伝奏屋敷に来て、浅野家と交代したのは午後二時ころで、せいぜい三、四時間ほどの間なのである。(赤穂御用日記 三月十四日)

三月下旬から四月上旬にかけて、赤穂城では、ろう城や抗議の切腹をすべき、などの過激な動きがあつた時期である。また、大石内蔵助の嘆願書を持った多川と月岡が四月四日に江戸に到着するが、その前日、四月三日に、伝奏屋敷の留守居から、浅野内匠頭の従妹である戸田采女正の元に、話をしたい旨の連絡があつた。戸田采女正は幕府から、浅野家の改易が何事もなく静かに済むように、責任を持って抑えるようにと

命じられていた。戸田家からただちに使いが行っている。そこで、伝奏屋敷に残っている浅野家の道具を引き取りに来るように言われたのである。その道具目録が残っている。(赤穂御用日記 四月三日)つまり、まだ、四月三日現在では、かなりの道具類が伝奏屋敷に残っていたのである。

## 道具目録

「金一枚屏風 一 雙半、二枚屏風 一、風礮先屏風 一、墓子 一飾、長持 一棹、拵置 一、太刀置 一、手拭〇 一、多葉粉盆 一、手水盤 一、湯次 一」高野家

「金屏風 一 雙半、二枚屏風 一、風礮先屏風 一、墓子 一飾、拵置 七ツ、長持 一棹、衣桁 一、手拭〇 一、多葉粉盆 一飾、茶碗 一、手盤 一、水次 一」柳原家

「白木長持 一棹」浅野内匠頭用

「大水涌 二、数桶 百十」

(〇は判読不明)

目録は、勅使の高野家、柳原家毎に作られている。「大水涌、数桶」は特にどここの家で使用したと明記されていないので、共通で使用するための道具であろう。道具類は、浅野内匠頭の長持まで、二十六項目、百四

十二点が伝奏屋敷に残っていたのである。

四月八日に、戸田家は道具類を伝奏屋敷に引き取りに行き、深川小名木川の町土蔵に納めている。

五月十日には、戸田家から使いを浅野美濃守へやり、深川に置いてある道具類について相談をする。ただ、その後も何回か戸田家と浅野美濃守との間で相談しているが、決着は付いていない。六月二十九日になってはまだ町土蔵に置いたままである。(赤穂御用日記 四月八日、五月十日、六月二十九日)

以上を勘案すると、伝奏屋敷の道具類は、三月十四日に伝奏屋敷に交代要員として来た、戸田能登守の家来と浅野内匠頭の家来とが話し合いをし、短時間で同じものをそろえられないため、引き続き戸田能登守が使用することになったのである。ただし、原惣右衛門も確かに一部の道具類を運び出しているので、足りない分は、戸田能登守側で用意したはずである。江赤見聞記の、過半は行方不明、とあるのは、盗まれたものではなく、大半の道具は残してきたことを知らなかったためだと考えられる。江赤見聞記の作者は、瑤泉院付の落合与左衛門と考えられているので、この戸田家と浅野美濃守の動きは知らなかった。そのため、過半は行方不明としたのである。

四月八日に、戸田家が伝奏屋敷から道具類を運び出し、小名木川の町土蔵に入れた。おそらくこの町土蔵

には、伝奏屋敷の道具類だけでなく、浅野家上屋敷や下屋敷にあった武具や道具類も入れておいたと考えられる。この道具類を戸田家から浅野一族の浅野美濃守に引き取るよう交渉がされたのである。しかし、大量の道具類のため、引き取りは簡単にはいかず、六月二十九日になってもそのままとなっていた。ただ、最終的にはこれらは浅野美濃守が引き取り、武具類の一部は大石内蔵助らに渡され、討入りに使用されたと考えられる。

なお、中央義士会報第五十九号(平成二十年十月号)「親戚から見た元禄事件」で、赤穂御用日記を引用しているが、そこで、赤穂御用日記は、戸田家に伝わったものを東京帝国大学が謄写した、としたが、これは誤りで、中央義士会が戸田家から六巻と追加一巻を借りて昭和九年八月三十一日に三部謄写し、そのうちの一部が東大史料編纂所に渡されたことが判明した。東大史料編纂所が蔵書しているものも、六巻と追加一巻なので、同じものであることがわかる。ここで、誤りを正しておく。(太田能寿 真相義士四十七話)

この当時、東大史料編纂所には、後に中央義士会の会長となる渡辺世祐博士がいたので、その縁で資料が渡されたと考えられる。

## 中央義士会への振込入金は下記へお願いいたします。

### 1. 郵便局での振込の場合

中央義士会 00250-9-139100

これまでの中央義士会の口座番号と異なっていますのでご注意ください。

### 2. 埼玉りそな銀行 北越谷支店(591)

(財)中央義士会 (普通) 4338404

### 3. NPO法人忠臣蔵倶楽部への郵便局からの振込の場合

NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038



その時、その義士たちは

どこにいたのか（その一）

理事 三輪二郎

忠臣蔵（元禄赤穂事件）を語る時、次の三つの時点（事件）を抜きにしてそれを語ることは出来ない。

- 一、松之廊下刃傷事件、元禄十四年三月十四日（1701年4月21日）
- 二、四十七士吉良邸討入り、元禄十五年十二月十四日（1703年1月30日）
- 三、四十六士切腹、元禄十六年二月四日（1703年3月20日）

その時、その義士たちはどこにいたのか” それぞれ前記の三つの時点における義士たちの居場所を次のように整理してみた。

なお、義士たちの呼称は正式には討入りまでは浪士、それ以降を義士とすべきかと思っただが、敢えて義士一本とした。

一、松之廊下事件

浅野内匠頭は、父、長友が夭逝（三十三歳）したため、九歳で家督を継いでおり、この時（三十五歳）勅使饗応役は二回目、参勤交代は七回目で江戸屋敷に詰めていた。三〇〇名以上いた家中（士分格）も「江戸定府」、「江戸勤番」併せて七〇名以上が江戸に詰めていたといわれている。

義士たちの国許、江戸詰めに大別した居場所は表のとおりである。

- 表中の三つの用語の意味は次のとおりである。
- ① 部屋住み＝嫡男で家督を相続していない者
  - ② 江戸定府＝江戸に一定期間定住して国許へ帰らぬ者
  - ③ 江戸勤番＝主君の参勤交代等で供をして江戸に滞在し、また供をして国許へ帰って行く者

改めて、表により義士達の顔ぶれを見ると

- ① 四十七士中三十七名が現役の武士である。これに対し部屋住みが七名で、いずれも現役義士の子弟である。ほかに隠居の堀部弥兵衛、浪人二人（不破数右衛門、間新六）がいる。

- ② 赤穂浅野家には最高幹部である家老は当時四人いたが、大石内蔵助以外、城代家老の大野九郎兵衛、江戸詰め家老藤井又左衛門、安井彦右衛門の三名の名前は無い。

- ③ 武家の格式の一つである禄高は当然のことながら筆頭家老の大石内蔵助が最高で一五〇〇石、討入り時、副将といわれる吉田忠左衛門が二〇〇石。赤穂浅野家分限帳ではこの間に三〇名以上の名前があるが、ここには原惣右衛門（三〇〇石）、片岡源五右衛門（三五〇石）、近松勘六（二五〇石）ら五名の名前しかない。
- ④ 二〇石以下の軽輩が十三名もいる。

その日（三月十四日）は勅使、院使を迎えての公行事最後の日、將軍による奉答の儀の日であった。勅使らはすでに登城し、本丸御殿、殿上の間、下の間で二回目の休憩に入っていた。

事もあるうに、事件はその部屋の真ん前の大廊下で起った。時刻は四つ半（午前十一時ころ）。

御台様（將軍綱吉の正妻）のお使いで上野介を探していた梶川與惣兵衛がやっと上野介を見つけて大廊下の中程で一言二言、話し始めた時、「上野介め」

と小さく切りに付けた者がいた。

それが浅野内匠頭長矩であった。一太刀、二太刀顔面と背中を切られて上野介が前に倒れたとき内匠頭は後ろから梶川與惣兵衛に羽交い締めになれ身動きができず、ついに上野介を仕留めることはできなかった。

その一言二言こそが、高家衆、大名が大勢居並ぶ中での内匠頭に対する悪口であったと言う。

その時代人前での武士に対する悪口は死を意味するものであった。

内匠頭は殿中、蘇鉄の間で目付多門伝八郎、近藤平八郎の取調べを受けた。

その結果、將軍の裁断により内匠頭を当分の間、陸奥一ノ關領主田村右京太夫邸に預ける旨、右京太夫に申し渡された（午後一時ころ）。

内匠頭は駕籠に乗せられ、錠を下ろし、網懸けし、大勢（七〇名以上）の警護の下に平河門（不浄門）から愛宕下の田村邸に向かった。到着は午後四時ころであった。

当分の間お預けを申し渡された田村家では座敷の一部を部屋の外から障子、欄間などを釘付けに

し、便所も部屋の中にしつらえるなど、受け入れの準備にかかっていた。

しかし、幕府では内匠頭の処分について激論が交わされ、結局將軍綱吉の意向を受け入れ直ちに本日（当日）切腹となった。

間もなく検使庄田下総守、副検使多門伝八郎ら検使団の一行が田村家に着いた。

検使庄田下総守の命により切腹の場は御出會之間の庭先に畳三畳ほどの広さで造られた。

そして間もなく、内匠頭は徒目付磯田武太夫の介錯により三十五歳の生涯を終えた（午後六時ころ）。

#### 遺言

「此の段 兼ねて知らせ申すべく候得共、今日やむ事を得ず候故、知らせ申さず候、不審に存ず可く候」

内匠頭が家来に書き残したい事があると言ったが、認められず口述したものを田村家の家臣が文章にして、後に浅野家へ渡したものである。

宛先がなんと片岡源五右衛門と磯貝十郎左衛門とある。

#### 辞世

「風さおう花よりもなほ我はまた

春の名残をいかにとかせん」

切腹の直前、内匠頭は硯箱引き寄せ、ゆるゆる墨を摺り、筆をとった」と多門伝八郎筆記にある。

遺骸はその夜のうちに片岡、磯貝らの側近により、浅野家の菩提寺、芝高輪の泉岳寺に移され簡単な葬儀が営まれた。

#### 戒名

「冷光院殿前小府朝散大夫吹毛玄利大居士

泉岳寺時の方丈酬山長恩和尚によって贈られた。中国宋の仏典碧巖録よりとられた。極め奥深い意味があるという。

#### （参考文献）

- 一、新大石内蔵助の生涯 中島康夫
- 二、独学・忠臣蔵 山田泰三
- 三、正史赤穂義士 渡辺世祐
- 四、赤穂義士実纂 斉藤 茂

①松之廊下刃傷事件 当時の居場所

		現 役		小計	部屋住・隠居・浪人		小計	合計
国 許		大石 内蔵助	木村 岡右衛門	18	大石 主税		6	24
		間瀬 久太夫	貝賀 弥左衛門		間瀬 孫九郎			
		潮田 又之丞	岡島八十右衛門					
		間 喜兵衛	勝田 新左衛門		間 十次郎			
		中村 勘助	神崎 与五郎		岡野 九十郎 → 金右衛門			
		菅谷 半之丞	茅野 和助		(～元禄15年9月父病死後改名)			
		千馬 三郎兵衛			矢頭 右衛門七			
		横川 勘平			(～元禄15年8月父病死)			
		吉田 忠左衛門	(加東郡)					
		寺坂 吉右衛門	(加東郡)		小野寺幸右衛門 (京 都)			
		小野寺 十内	(京 都)		以上6名は部屋住			
		吉田 沢右衛門	(加東郡)					
		奥田 貞右衛門	(加東郡勘定方)					
江 戸 勤 番	江	原 惣右衛門	大高 源五	12				12
	戸	片岡源吾右衛門	武林 唯七					
	勤	礒貝十郎左衛門	倉橋 伝助					
	番	近松 勘六	杉野 十平治					
		大石 瀬左衛門	横川 勘平					
		早水 藤左衛門	三村次郎左衛門					
江 戸 勤 定 府	江	富森 助右衛門	赤埴 源蔵	7	堀部 弥兵衛 (隠居)		4	11
	戸	堀部 安兵衛	奥田 孫太夫		村松 三太夫 (部屋住)			
	勤	矢田五郎右衛門	村松 喜兵衛		<浪人>			
	定	前原 伊助			不破 数右衛門 (江戸?)			
府				間 新六 (江戸の姉宅)				
合 計				37			10	47

完成された表ではございませんので、異論のございます方は  
ご連絡下さい。

## 創立109年記念

# 第15回忠臣蔵博士試験問題

### [受験資格について]

- ・ 受験料は無料ですが、受験資格は会員に限ります。

### [解答票の配布について]

- ・ 第 15 回忠臣蔵博士試験の解答票は、勉強会などで配布致します。別途必要な方は本部（FAX 048-973-3790）までご連絡下さい。FAXでお送りいたします。または、メールで中央義士会のメール（chuogishikai@tokyo.email.ne.jp）までご連絡下さい。折り返しメールでお送りいたします。

### [解答票の送付]

- ・ 解答票は本部まで（FAX 048-973-3790）FAXで送付下さい。

### [解答に際しての注意事項]

- ・ 試験問題の解答を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げたいのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題がたくさん出題されています。
- ・ 文章での解答については、解答者が理解しているかを判断基準にさせていただきます。
- ・ 文章での解答については、要領を得ない場合は失点とします。
- ・ 解答がないと思われる場合は「なし」とだけ記入して下さい。
- ・ 文章を求める答えで、別紙を添付しても構いません。
- ・ **最終提出日は、平成30年10月末日です。**

平成29年12月

第1問	いわゆる大学の先生といわれている方々の忠臣蔵出版本と中央義士会の出版本と比べた場合、何が違うのでしょうか。
第2問	赤穂城明け渡しの際、大石内蔵助は大変「立腹」しますが、どのような事に怒ったのでしょうか。月岡・多川以外でお答え下さい。
第3問	「斉藤たか」とは、どなたのことでしょうか。
第4問	元禄14年から15年8月頃まで、大石内蔵助は京都山科の岩屋寺の岩下に住まいした事になっておりますが、そのことを、学問的に証明、あるいは史料を提示して下さい。
第5問	大石内蔵助はよく「ぼたんの花」が好きで、山科においても植えたとされておりますが、どのような事で証明されるのでしょうか。

第6問	いわゆる「神文」といわれるものの「本物」は現在どの施設が持っているでしょうか。
第7問	「二老略伝」なる書き物がありますが、内容は信用できるのでしょうか。 ① できない                      ② できる
第8問	赤穂義士は討入り前、泉岳寺に二手に別れて引き揚げる予定であったようですが、そのことを示す史料は現在、どここの施設が持っているでしょうか。
第9問	「預り置候金銀請払帳」は二部作られたと思われる謂われは、何のことから言えるでしょうか。
第10問	元禄16年2月4日、間新六だけが実際短刀を腹に突き立てていますが、あなたは、この行動をどのように思いますか。
第11問	市販されている元禄事件の史実本は、読むに耐えない稚拙な執筆ばかりですが、どうしてこのようなゴミにしかならない本が相も変わらず次々と出版されるのでしょうか。
第12問	討入りから数年後に、義商綿屋善右衛門の御内儀が亡くなります。その事を示す史料は現在どこにあるでしょうか。
第13問	橋本平左衛門の墓は、どこにあるでしょうか。例えば「京都の黒谷」というように記して下さい。
第14問	「松永士斎」とはどなたの本名でしょうか。
第15問	水間治部左衛門が山科で自刃した事は、何を持って証明されたのでしょうか。
第16問	赤穂城明け渡しの際、大石内蔵助が割賦金を受け取らなかったことは知られておりますが、もう一人割賦金を受け取らなかった上役の方がおりました。どなたでしょうか。
第17問	下記の僧侶で花岳寺の僧ではない方が一名おります。どなたでしょうか。 ① 良雪                      ② 恵光                      ③ 梅堂                      ④ 良雲
第18問	大石内蔵助は松之廊下事件を知り、藩士の月岡、多川に持たせた嘆願書は有名ですが、その文面により内蔵助の性格を知ることができます。あなたはどのような性格だと思われますか。

第 19 問	永青文庫では、甚三郎の書状を一件の史料として保管しております。この事でどんなことが分かってくるでしょうか。
第 20 問	洋泉社「幕臣伝説」(2014年初版 氏家幹人著)により、内藤和泉守が、起こした「増上寺事件」の原因が解明されておりますが、このことは、元禄事件の解明にどれ程の影響があるでしょうか。
第 21 問	医師道的(どうてき)先生と親しかった義士はどなたでしょうか。
第 22 問	「志霊」はどなたの戒名でしょうか。
第 23 問	大石内蔵助がリクを娶る際に中立になった方はどなたでしょうか。
第 24 問	大石内蔵助が元禄14年4月18日に永應寺に寄附した品物は何でしょうか。
第 25 問	赤穂大石神社本殿並びに拝殿は、赤穂浅野家時代は、どなたの屋敷が建っていたのでしょうか。
第 26 問	吉田忠左衛門の親戚、柘植家からは超有名な方が出ております。その人名を書いて下さい。
第 27 問	赤穂城明け渡し一件書に「二の郭明屋敷建家有之、同明屋敷建家有リ之」と書かれている部分があります。この二の丸には以前どなたと、どなたが住んでいたのでしょうか。
第 28 問	赤穂大石神社が保有している城明渡しの際の「城中犬之覚」があります。この覚書が書かれた日を明記して下さい。
第 29 問	大石頼母助が山鹿素行を接待したとされる、二の丸の池の名は何と呼ばれているでしょうか。
第 30 問	29問の池の名は、何という史料に認められるでしょうか。

注意：・文章での解答が多いので、月一勉強会、水曜ゼミなどでなるべく解説をして参ります。勉強会の出席を第一と考えて頑張ってください。

- ・解答が的確でない場合、△印が付く場合がございます。△が2つで1点減点となります。
- ・問題そのものについてのご質問は幾つでも受付けますので、何度でも聞いて下さい。

中央義士会

評議員 金子 堅一

東京都荒川区在住

中央義士会

副理事長 富岡 克


東京都中央区在住

日蓮宗

高光 寺

三好 一行

赤穂市加里屋二八六一



家紋  
「蛇の目」

中央義士会 勝田新左衛門子孫

評議員 勝田 芳造

東京都足立区在住

中央義士会

常務理事 荻原 栄

中央義士会のホームページは <http://www.chuushingura.net/> で

中央義士会 山鹿支部

平成堀内組頭取 宮川政士

細川家お預かりの義士十七名のお世話係「堀内伝右衛門」  
像を山鹿・日輪寺境内に建立いたします  
皆様のご支援・ご協力どうぞ宜しくお願い申し上げます

中央義士会

理事 三輪 三郎

川崎市麻生区在住

株式会社 メディカルオフィスベラ

代表取締役 武 類 俊 哉

取締役所長 武 類 ますみ

東京都北区在住

地区	会 員 別	芳 名
君津市	一 般	池田 文雄
大和市	一 般	石川 弘美
八王子市	一 般	石東 邦子
八王子市	一 般	磯員 信行
八王子市	一 般	加藤 俊和
八王子市	一 般	小林 絹代
赤穂市	一 般	神 務
桜川市	一 般	多田 信一
我孫子市	一 般	榎野 淑子
渋谷区	一 般	藤川 沙来
長野市	一 般	丸山 弘人
我孫子市	一 般	加倉井 栄子

★新入会員紹介★ (敬称略)

## 忠臣蔵110番

- 講演・探訪会の講師派遣 (有料)
- テレビ・ラジオ番組制作協力 (有料)
- 忠臣蔵書籍出版
- 忠臣蔵図書の買い取り・販売
- 忠臣蔵図書の閲覧 (有料)
- 論文の募集
- 赤穂義士に関わる調査 (有料)
- 忠臣蔵出版物の校正 (有料)
- 各地義士会入会の紹介
- その他、赤穂義士に関わる全ての相談

携帯 080-8908-1633  
メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

平成29年 中央義士会 業務報告

担当 三輪三郎

年 月 日	項 目	備 考
H29.1.15	第84回月一勉強会 近松勘六について	港区生涯学習センター304学習室
1.21	旧細川邸(大石内蔵助ら切腹の地)清掃	旧細川邸 参加者 5 名
1..29	第19回忠臣蔵愛好会 赤穂義士引き揚げコースを歩く 両国駅一永代橋一泉岳寺9時15分 JR 総武線両国駅西口集合	参加者 50名
2.12	第85回月一勉強会 神崎与五郎について	港区生涯学習センター304学習室
3.12	浅野内匠頭追善法要(317回忌)	泉岳寺
3.13	講演会: 忠臣蔵について 於厚生年金基金会館 中央区築地JJK	中島理事長 200名聴講
2. 23~3.14	バスツアー: 忠臣蔵ゆかりの地(松之廊下等) 2/23, 3/2,5,8,11,14 計6回	中島理事長
3.18	林智雄氏(元全義連会長)逝去 平成29年3月15日	葬儀:3月23日 於宗参寺
4.9	第86回月一勉強会 原惣右衛門について	港区生涯学習センター304学習室
4.13	第20回忠臣蔵愛好会 南部坂雪の別れ: 南部坂、氷川神社、勝舟屋敷跡等	中島理事長 参加者 30 名
5.14	第87回月一勉強会 歴代中央義士会第一人者について	港区生涯学習センター304学習室
5.15	新発田市「武庸会」東京史蹟探訪(細川邸開錠)	中島理事長
5.28	中央義士会理事会 中島理事長以下7名 出席	港区生涯学習センター202学習室
6.11	第88回月一勉強会 四方庵宗備について	港区生涯学習センター304学習室
7.2	第89回月一勉強会 「江石見聞記」の再考	港区生涯学習センター304学習室
7.18	NHK学園との打ち合わせ 14:00 於 国立	中島理事長
7.18	神戸新聞との打ち合わせ 16:00 於 日比谷	中島理事長
8.6	第90回月一勉強会「寺坂雪冤録」について	港区生涯学習センター304学習室
9.10	第91回月一勉強会 「昔懐かしい東映、大映のステール写真」公開	港区生涯学習センター304学習室
10.8	第92回月一勉強会 ①泉岳寺 墓地、新築庫裏。庭園見学②切腹の地(旧細川邸)清掃	18名参加。富岡副理事長案内
10.14,28	江東区古石場文化センター 史実の忠臣蔵	中島理事長
11.5	第21回忠臣蔵愛好会 元禄忠臣蔵の世界 浜離宮	速藤理事
11.2,16,30	NHK学園 くにたちオープンスクール 真実の忠臣蔵	中島理事長
12.10,11	両国元禄市参加	中島理事長以下5名
12.14	赤穂義士追憶の集い(赤穂義士討入り満三百十五年祭)	於泉岳寺

編集後記

会報の遅れのお詫び

日頃の不振生がたり、昨年七月より入院・通院等を繰り返して、新年を迎えましても入院している始末です。この会報の印刷をしている時も手術をしていると思えます。という訳で皆様への新年の御挨拶も失礼致しましたこと、改めてお詫び申し上げます。小生の病のため一年遅れになりました「年譜忠臣蔵」「寺坂吉右衛門最終章」は、今年こそは、かならず発刊致しますので、しばらくお待ち下さい。御子孫の方々も、よくよく本会報を読んで正道を歩んでいただきたいと存じます。小生は、赤穂義士の研究のため、全財産を投げ打って、本日まで頑張つて参りました。現在、義士たちを逆攻撃してくる似非知識人が増えております。ここは、義士派の方々はまとまる必要があります。

(中島)

編集者

中島康夫(企画・編集・検証)

萩原 栄(編集) 中西 勉(校正)

三輪三郎(校正)

エム・シヨット(印刷)